

ペドゲイト：パンドーラの箱が開かれ、深層国家と CIA の 本性が現れる（2）

グローバルな子供売買・性虐待犯罪シンジケート

【訳者注】大多数の人々が、アメリカがこれほどの犯罪国家であったことを、知らなかったと言うであろう？ 信じられない、こんなことは間違っているという人もあるかもしれない。そういう人々は、発奮して自分で研究されればよいと思う。その結果がどうであろうとも、我々は今、真実に目を開かれることを求められている。戦後まもなく評判になった「キンゼイ報告」が、このコンテキストで重要な意味をもってくるというのも驚きである。

SOTN (State of the Nation)

March 14, 2017

読者にぜひとも理解してほしいことは、ピザゲイトが氷山の一角——世界の子供たちに対して犯された底知れぬ犯罪の地球的氷山——に過ぎないということである。それは、ペドゲイトと呼ばれる、遥かにもっと大きな世界的ペドフィリアに関わるだけでなく、四六時中、あらゆるところで子供搾取の取引をしている、国際的な犯罪シンジケートと絡んでいる。

ワシントン DC と CIA

ピザゲイトがこれほどに爆発的なものになったのは、そのすべての主役たちが、DC の政治やワシントンのパワープレー、米政府の影響力行使、そして連邦の権力取引に、深くかかわっている者たちだからである。そこへもってきて CIA がある。この情報局はしばしば、国家規模で起こる多くのペドゲイトをコントロールするだけでなく、それらのすべてを、一つひとつ、注意深くモニターしていると思われている。結局のところ、これら想像を絶する子供虐待活動は、何よりもまず、アメリカの政治家を完全な監視下に置く、トップの支配機構として行われているのである。（ペドゲイト：非常に高い地位の女性操作担当者：<http://themillenniumreport.com/2017/03/pedogate-operatives-in-very-high-places/>）

なぜそれが、それほどに重要なのか？

よく事情を知らない人が理解しておかねばならぬ重要なことは、アメリカ合衆国は **New World Order (NWO)** の軍事部門として機能するように、念入りに仕組まれてきたということである。この中心的な役割において、アメリカは、シティ・オブ・ロンドンに本部のある金融部門、それにヴァチカンにある **NWO** の宗教部門から、指令を受け取っている。これが、“世界の影の政府”がワシントン DC、米軍最高司令部、それに世界の軍事警察で起こっているすべてを掌握することが、きわめて重要な理由である。

ピザゲイトは、ワシントンのすべての者がとっくに知っていることを、明るみに出したに過ぎない。すなわち、ほとんどすべての名のある政治家は、不法な、そして/または暴力的な、ほとんどは未成年の子供たちとの性交渉によって、立場を危険にさせられることによって、コントロールされているのである。かつてピューリタンだったアメリカにおいては、常にこれが、順応しない選ばれた役人を落とす、最も簡単な方法だった。もちろん、もしこの不法な暗黒の振舞いが、子供の強姦やサタンの儀式的生贄との関連で起こったならば、彼らの政治生命は終わっただけでなく、投獄によって自由も失った。



CIA=コカイン輸入機関

CIA は常に、世界の違法トップ3の、国家収入捻出活動に深くかかわってきた。麻薬取引と武器取引は共に**巨大財源**と言ってよい。しかし彼らにとって本当に割りが合うのは、子供取引である。CIA には、カネを食う黒い予算の活動があまりにも多く、この地球上で彼らが存続するためには、これらの犯罪活動からの巨大な資金が必要になってくる。子供取引はまた、現場の権力者をコントロールする特別の手段をも与える。しかし、地球的権力構造の最も高いグループを占める人々もまた、この地球的ペドフィリア・リングのおかげを被っているのである。

過去数十年間行われていた、他のすべての、高い地位での子供性虐待スキャンダルと、**ピザ**

ゲイトが、本当に違うところはそこである。それは、国際的な子供搾取ビジネスの内部に深く埋め込まれた活動の中で、目立つ地位の CIA 細胞の本来のあり方を、白日の下に明らかにした。この特定のペドゲイト活動は、実は CIA と、他の聞いたこともない略語の、秘密の黒い犯罪行動にかかわっている諸機関によって、コントロールされているのである。

高い地位でのペドフィリアほど、高い放射能活動があるだろうか？

現実には、ペドフィリア・リングは、それより遥かに不気味なビジネス活動を隠すものとして、組織されている。日常的に行われているそのような犯罪活動には、写真やフィルムの子供ポルノの生産、スナッフ・ムービー（実際の殺人ビデオ）などが含まれる。他の犯罪行動の種類として、サタンのな子供の生贄や血をすすめるものがある。しかし最も忌まわしいものとしては、子供の内蔵取引、組織の取り出しや血の抜き取りがある。

CIA がアメリカ人民のために、現在もこれまでも、何の仕事もしてこなかったことを把握しておくことが肝要である。“The Company”とも呼ばれるこの機関は、もっぱら“軍産複合企業”と、世界中にばらまかれた、他の主要“フォーチュン 1000 社”のために働いている。CIA はまた、選ばれた NGO に雇われることもあるが、それらは現実には、クリントン財団のように CIA の表会社として設立されたものである。“クリントン・グローバル事業”とは、グローバルな CIA 活動のことで、それは、どこでもそのような善意のうわべを作る必要のある、あらゆるブラック事業に浸透している。

クリントン財団：典型的な、完全に超法規の“CIA に指令される” NGO :

<http://stateofthenation2012.com/?p=45349>

こうした、また他の理由によって、ヒラリーもビル・クリントンも、子供取引に関係のあるさまざまな陰謀に加担してきた。Comet Ping Pong でのピザゲイト・スキャンダルは、クリントン選挙本部長ジョン・ポDESTA によって監視されたスキャンダルの、一つにすぎない。ジョンは、スーパー・ロビイストの弟トニーと共に、DC ペドフィリアの主要人物である。

クリントン財団を有名にした努力そのものが、ハイチの破局的な地震への彼らの反応であった。しかし、子供密売買（33 人）で捕まり有罪となり、国務長官クリントンが起訴から保護しようとしたある女——Laura Silsby——もまた、この財団につながっている。これが、主流メディアがこの犯罪全体について、不気味に沈黙していた理由である。

J・エドガー・フーヴァーと FBI

アメリカでは、“高い地位での” ペドフィリア犯罪が、めったに調査されない特別の理由が一つある。そして調査されるまれな場合には、その目的は、議会（や、その種の所）から、特別扱いを保留していた者、または隠せない政治起訴事件の犠牲者を追い出すことである。その理由が、最初の FBI 長官 **J. Edgar Hoover** に大いに関係がある。エドガー・フーヴァーはホモセクシュアルであるだけでなく、ペドフィリアをやっていたことも知られていた（これが、フーヴァーが生涯 FBI 長官の地位にいた理由ではなかろうか？）。

<http://stateofthenation2012.com/?p=61523>

国家の法執行官チーフとして、彼は、アメリカの政治家仲間やその関係者の、性の秘密や不法な性的行動をひそかに知っていた。この現実のために、フーヴァーは、性的な逸脱行為が、ワシントン DC のどんな重要な当事者をも失脚させることができると知っていた。同時に彼は、もし自分がこのような権力を攻撃的に行使したなら、自分もまた非常に危険な立場にあると分かっていた。

現職 FBI 長官 **James B. Comey** の最近の違法行為は、これで、より一層理解しやすくなったであろう——特に、クリントンの E メールゲイト犯罪騒ぎに関する場面では。司法省 (DOJ) のトップ雛壇にいる者たちに、醜い行動がある可能性はかなり大きく、それは FBI や DOJ の主役たちをゆするのにも利用できるであろう。これが、ほとんど常に行われているやり方である——そのような主張を支持する固い証拠があるわけではないが。

しかし、ヒラリー、ビルのクリントン夫妻や、ジョン、トニー・ポデスタ兄弟に関する限り、起訴に十分な膨大な証拠がある。クリントン夫妻が共に、**Jeffrey Epstein** の“ロリータ・エクスプレス”（私用ジェット機）に乗って、これまで何度も“**Orgy**（乱交パーティ）島”に行っているのは、多くの非常に疑惑の濃い行動パターンの一つである。エプスティーンは、有罪となったペドファイルであるだけでなく、彼はまた弁護士とともに、極端に疑わしい裁判事件の中心にいる。なぜなら彼の受けた有罪判決は、異常に軽微で、宣告は異常に寛大だったからである。彼の裁判での法廷の処置は、アメリカ史で全く前例のないものだった。

<http://stateofthenation2012.com/?p=61529>

明らかに FBI は、この局の行動を導く不文律の法典をもって、ペドフィリアの告発は追及されないことになっている。ただし、下位の FBI や DOJ の権威の及ばない最高レベルで、有罪とされた場合は別である。言い換えると、この第 3 千年紀のポストモダン時代では、CIA が直接、訴訟や調査結果について意思決定にかかわっている可能性が高い。CIA が世界的にペドゲイトに及ぼしている支配力を考えれば、例によって、FBI がほとんど常に告訴しないことにする理由は明らかである。

アルフレッド・キンゼイ：倒錯したペドファイル性科学者、その犯罪的実験

アメリカの“科学者”で Alfred Charles Kinsey ほど、その生涯の仕事が、ペドフィリア合法化の大義を推進するのに尽くした者はいない。キンゼイはこの国の最初の性科学者だと言われ、非常に幼い、また年長の子供たちに、サディスティックな性的実験を行った。彼の犯罪的実験の結果をざっと見ただけでも、それが子供の犠牲者に対して、きわめて残酷な虐待であることがわかる。 <http://stateofthenation2012.com/?p=61797>

驚愕！ キンゼイは私の父にカネを払って私を強姦した：

<http://stateofthenation2012.com/?p=61794>

ゲイのキンゼイが、1957年、インディアナ大学に“性研究所”を創設しようとしたのは、大きな意味がある。どうしてこのような、隠せない邪悪なセックス研究施設が、インディアナ州の保守的で伝統的な、ブルーミントンという土地に設立されるのか？ そのような誰が見ても不法で非人間的な実験を、幼い子供に対して行うことが許容されたということは、米連邦政府の祝福がそこにあつたに違いない。果たしてその通りだった。

歴史記録をよく調べると、研究者は、キンゼイのペドフィリア・アジェンダ全体が、CIAの後援によるものであると考えるほかなくなる。情報局共同体で“ザ・カンパニー”という別名をもつCIAもまた、1949年に「中央情報局」として出発していた。やがてアメリカ第一の情報収集局になるこの機関は、実は、その前身である悪名高いOSS (Office Strategic Services) の後を継いだものだった。

実はOSSが注目されるようになったのは、第2次大戦後の“ペーパークリップ作戦”の結果だった——これは「合衆国戦略的情報局 (OSS) 計画であって、主として科学者だがエンジニアや技師を含む、1,500名以上のドイツ人が、戦後のナチス・ドイツからアメリカへ連れてこられ、政府に雇用された。それは1945年に始まったが、大戦の余波として人数は増えていった。⁽¹⁾」多くの歴史家は、新しいCIA (1945年後の) は、第2次戦中に“第3帝国”によって行われた、いろんな種類のナチ人体実験を継続したと言っている。学者の中には、いわゆるエイリアンによる誘拐と人体実験は、実は、軍の研究所の協力による陰の作戦だと主張する者もいる。(エイリアンの誘拐はない、政府の拉致にすぎない：<http://stateofthenation2012.com/?p=32499>)

ここで肝要なポイントは、キンゼイのセックス研究所が、すべての法、成文法、道徳、社会的規範に逆らって行うことを許された、不法なナチの研究プログラムの、すべての特徴をもっていることである。幼い子供に対して行われたこの野蛮な実験は、2016年の子供の性虐

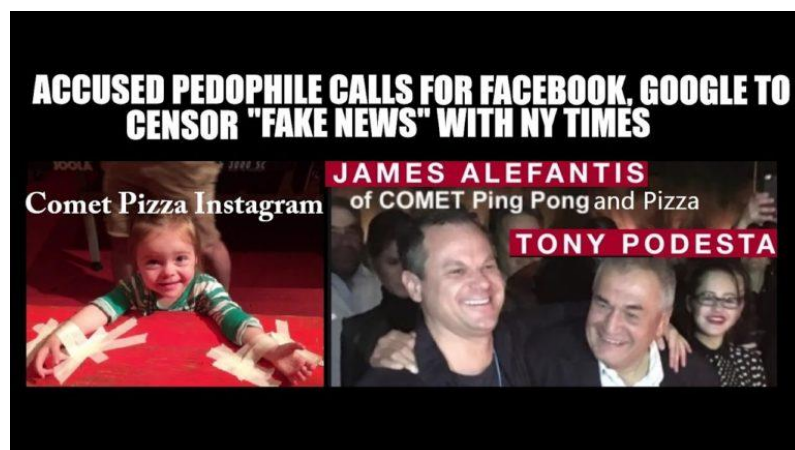
待の最高の形と言ってよく、その責任者は、法の最高限度の罪を問われてよいだろう。

明らかに、1940年代における、アルフレッド・キンゼイのゲイの性的方向付けは、大きな驚きで迎えられた。その当時の犯罪的ペドファイルたちとの、彼の疑わしい関係は、子供の性的反応について多くの疑問のあるデータを与えた。キンゼイ自身の実験記録は、彼のソースが、犯罪的ペドファイルと言われる者たちだったことを示していて、彼と交流した一部の人々がこれを確認している。実は、インディアナ大学のキンゼイの“性研究所”は、現実に本物の広範囲なペドファイル活動を反映する固い証拠の、正真正銘の宝庫である。真っ昼間に、CIAは、ほとんど好きなどんなことをやっても許された。

キンゼイの性研究は、子供と女性たちに回復不能の傷害を与えた：

<http://stateofthenation2012.com/?p=61803>

キンゼイの犯罪的な仕事の残した一つの社会的影響について、疑うことはできない——それは1960年代の性革命と、第3千年紀のLGBTQアジェンダに、道を開いたということである。信頼できない研究が、人間のセクシュアリティの権威として、議会の公聴会などで、これほど頻繁に引用された例は他にない。この研究の方法の多くが違法であるのみならず、その結果もまた、その誠実さを確かめようとした多くの人々によって、きわめて問題であると考えられている。



告発されたペドファイルが、フェイスブックやグーグルに訴えて、NYタイムズと共に“フェイク・ニュース”の検閲を求める。

(以上、Part 3に続く)

